

「気候変動監視レポート2020」を公表しました

2020年の日本と世界における大気、海洋等の観測及び監視結果等を、「気候変動監視レポート2020」として公表しました。

「気候変動監視レポート」は、社会・経済活動に影響を及ぼす気候変動に関して、我が国と世界の大気、海洋等の観測及び監視結果に基づいた最新の科学的な情報・知見をまとめた年次報告で、1996年より刊行しています。

今般、2020年の状況を取りまとめた「気候変動監視レポート2020」を公表しました。本レポートは、「2020年冬（2019年12月～2020年2月）の記録的な高温と少雪」、「2020年8月に日本の南を中心とした海域で海面水温が過去最高を記録」の2つのトピックスと3つの章で構成され、各章テーマの最新情報を掲載しております。主な掲載内容は別紙をご覧ください。

また、本レポートの全文は以下のURLからご覧いただけます。

掲載URL：<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/monitor/index.html>

問合せ先：大気海洋部気象リスク対策課気候変動対策推進室

担当 須藤・國光

電話 03-6758-3900（内線 4110、4113）

気候変動監視レポート 2020 の主な内容

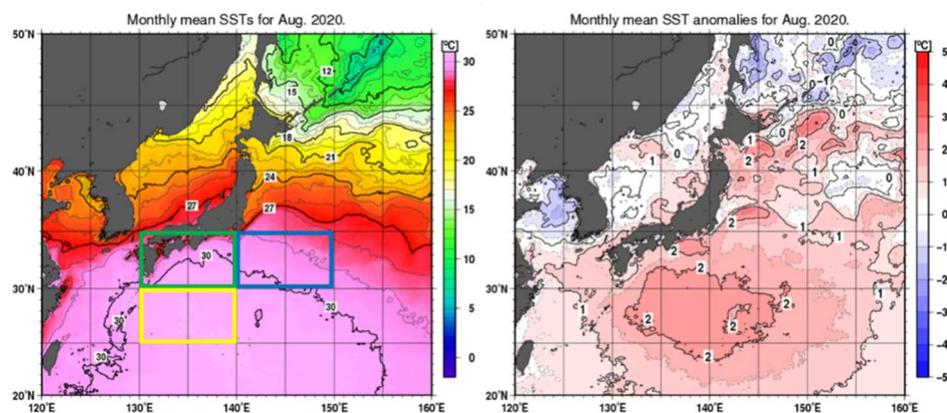
<トピックス>

I：2020年冬（2019年12月～2020年2月）の記録的な高温と少雪

- ・冬の平均気温は、東・西日本で特に高く、平年差がそれぞれ+2.2℃、+2.0℃と、冬として最も高い記録を更新しました（統計開始は1946/1947年の冬）。
- ・また、全国的に冬の降雪量はかなり少なく、北・東日本日本海側では最も少ない記録を更新しました（統計開始は1961/1962年冬）。

II：2020年8月に日本の南を中心とした海域で海面水温が過去最高を記録

- ・2020年8月の日本の南を中心とした海域の海面水温は、平年よりかなり高くなり、特に、関東南東方、四国・東海沖、沖縄の東では、解析値のある1982年以降で最も高くなりました。



2020年8月の月平均海面水温（左図）と月平均海面水温平年偏差（右図）

<第1章 2020年の気候>

世界各地で発生した異常気象や、日本の季節別の天候の特徴、それらの現象の要因となった大気と海洋の状態についてまとめています。2020年は、全国的に年間を通して気温の高い状態が続き、令和2年7月豪雨など東・西日本で記録的な大雨や日照不足となりました。

<第2章 気候変動>

気温や降水量、海面水温、海氷面積等の長期的な変動についてまとめています。2020年の日本の年平均気温は、1898年の統計開始以降で最も高い値となりました。日本の年平均気温は100年あたり1.26度の割合で上昇しています。降水量について長期的な変化傾向はみられないものの、大雨や短時間強雨の発生頻度は増加し、降水の日数は減少しています。

<第3章 地球環境の変動>

大気と海洋の温室効果ガスや日本における黄砂や日射量の変動についてまとめています。二酸化炭素濃度は大気・海洋ともに長期的に増加しています。